

〈様式1〉 実践事例

学校名	福島市立福島第二中学校	校長名	佐藤 和彦		
住所	福島市桜木町5番20号	児童生徒数	313名	学級数	普通学級10 特別支援学級 3
TEL	534-2166	ホームページアドレス	なし		

ティーム・ティーチングによる少人数指導の実践

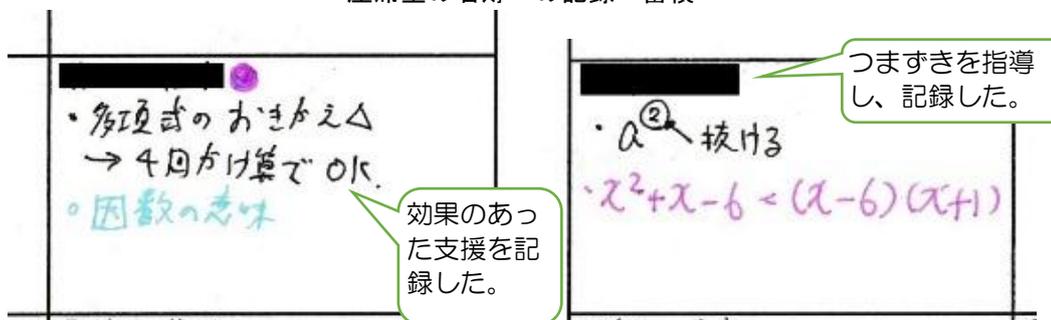
1 少人数指導の計画

- (1) 第3学年3クラスの数学科を、週4時間のうち2時間をT・T指導で実践する。3学年数学担当がT1を、2学年数学担当がT2を務める。
- (2) T2はT1が説明しているときには生徒が話を聞く姿勢づくりの支援をし、自力解決や問題演習など生徒が活動しているときには進捗の遅い生徒の支援にあたる。その際、座席表型の名簿を用いて特に支援が必要な生徒を確認し、計画的・継続的に個別支援を行う工夫をする。
- (3) 特定の下位生徒のみ重点的に支援するのではなく、上位生徒と下位生徒を交互に支援していくなど下位生徒の心情にも配慮する。
- (4) 単元のまとめでは、T1による基礎コースとT2による発展コースの2つのコースを設定し、生徒自身にコースを選択させて学習内容の確実な定着を図る。

2 実践の概要

- (1) 座席表型の名簿を利用した生徒理解による、計画的・継続的な個別支援
 - ① テスト結果や問題演習でのつまずきを座席表型の名簿に記録・累積しておくことで、担当学年ではないT2でも個別支援をしやすくした。有効だった支援策の記録(図)を累積し、以後の支援に生かすようにした。また、上位生徒のスマールティーチャーとしての活動や小集団形態の伝え合い活動など生徒相互の学びの実態も記録し、計画的・継続的な個別支援に生かした。

座席型の名簿への記録・蓄積



- (2) 基礎・発展の2つのコースを生徒の希望によって分ける少人数指導

- ① 教科書の章末問題に取り組む際、基礎コースは章の問題Aに、発展コースは章の問題Bにそれぞれ取り組むようにした。基礎・発展を分けて少人数にすることで、支援や解説の時間をより多くあてることができた。

3 実践の成果と課題

- 座席表型の名簿に生徒の実態を記入し、個別支援が必要な生徒の確認やその指導の記録をとることで、効率よく支援することができた。また、授業後につまずきのあったポイントについてT1との情報交換を行い、指導・支援の改善を図る資料とすることができた。
- 計画的・継続的な個別支援によって、生徒の学習意欲の変容が見られた。具体的には、T2からの支援を受けることに慣れることで積極的に質問するようになったことや、個人の思考を支援し自分の考えをもたせることで話し合い活動に自信をもって参加できるようになったことが挙げられる。
- 基礎・発展の選択コース学習も、生徒の希望によって分けるため、意欲を損なうことなく少人数指導を行うことができた。その結果、上位・下位それぞれの生徒にとって学習内容の定着を図ることができた。
- 選択コース学習を行う際、自分の習熟に合わないコースを選ぶケースが見られた。学習内容の定着について考えると教師の意図が反映された方が良い面もあると考えられる。